

プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

2011年4月20日号 (Vol.16)



はじめに

1. 離任にあたり一久保嶋専門家からのメッセージ

2. 現場活動の実況中継

- 2.1 県議会とひとつひとつ問題を解決していく
- 2.2 隣村で互いに監視するシステムを構築
- 2.3 始めは良かったのですが、臭い所では寝られません
- 2.4 主席行政官の現場訪問：フィーダー道路工事

3. プロジェクト進捗

- 3.1 キャパシティアセスメント：県職員の能力向上
- 3.2 パイロットプロジェクト：各ワードのコミュニティ開発 ー引渡し式ー
- 3.3 パイロットプロジェクト：フィーダー道路・カルバート改修計画
- 3.4 研修計画：財務・経済開発省と共催でコンピューター研修を実施
- 3.5 Steering committee 会議開催：モデルワード選定基準の確認

4. コラム

- 4.1 シエラのチカラ：シエラレオネの言葉
- 4.2 シエラのチカラ：カンビア観光案内 ー川にもビーチ！？ー

*プロジェクトHPにもアクセスください：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>



シエラレオネ



プロジェクト対象県

はじめに：

シエラレオネは今年の4月27日で独立50周年を迎えます。4月に入り土曜日は通りの清掃を行い、緑、白、青の国旗色の飾りが通りにつけられ、週末にはフリータウンのあちこちでマーチングバンドが練り歩き、記念日に向けてお祝いのムードを盛り上げています。

シエラレオネは1991年から11年間の内戦で大きな負の影響を受けました。2010年UNDPが発表した人間開発指数で、シエラレオネは169か国中158位と引続き最貧国の一つとして位置づけられています。しかし、2002年の内戦終結後から徐々にではありますが、確実に復興そして開発に向け前進しています。そ



のどかな田舎の風景：川に洗濯に行く人たち

して今年、平和な状況の中、独立 50 周年を迎えることが出来るのを心からうれしく思います。

4 月から日本の新しい年度が始まりました。本プロジェクトでは、シエラレオネが推進している地方行政を通じた村落開発の実施体制と機能強化を目的としています。

現場では、プロジェクト開始当初から昨年度までカウンターパートに対して「やってみせる」段階にあり、課題の把握や教訓の整理に努めてきました。今年度からはいよいよカウンターパートに対して「やらせてみる」段階に入り、技術移転の本格的な取り組みが始まります。課題はたくさんありますが、カウンターパートの長所に目を向け、個々の長所をさらに伸ばせるよう専門家一同で支援していきます。

一方、中央レベルでは、本プロジェクトの現場経験及びこれまでの村落開発の経験をもとにして、シエラレオネの村落開発ポリシー策定の協力を続けています。今後も、本プロジェクトの特徴の一つである「現場」と「中央の政策レベル」両輪の支援を続けていきます。

(平林リーダー)

ニュース 1：離任にあたりー久保嶋専門家からのメッセージ

開発に携わる者として、シエラレオネの魅力は何といっても、国造りのコアな部分に関われることです。目の前でまさに歴史が作られていくような、そんな躍動感に夢中にさせられることが多々ありました。また、地方分権化の過渡期にあるシエラレオネで、地方行政の能力向上を支援するという事は、いわば国造りのさらにその礎を築いていくことと同義ではないかと思えます。

そのような意味で、本プロジェクトのほぼ開始から携われたことは非常に光栄なことだったと思います。カウンターパートである県議会職員たちとパイロットプロジェクトの実施手順を作り上げ、実行していく作業は、まさに将来の地方行政のあり方に一石を投じる、非常にやりがいのある仕事でした。



離任の日にカウンターパートやナショナルスタッフに囲まれる久保嶋専門家（写真中央）

今後も県議会職員たちがパイロットプロジェクトの実施から学んだ教訓を活かし、より良い地方行政のあり方を四苦八苦しながらも、また時にはぶつぶつと文句を言いながらも、模索し続けていけることを願います。そして将来、シエラレオネ発の新しい地方開発の手法を、世界の開発実践者達に対して提言していけることを願っています。

本プロジェクトにて携わらせていただいた約 1 年半を含めて、シエラレオネでの滞在は約 3 年半となり、私にとってシエラレオネは非常に思い入れの深い国となりました。成長して、近い将来またシエラレオネの国造りに貢献できればと思っています。

(久保嶋専門家)

ニュース2：現場活動の実況中継

2.1 県議会とひとつひとつ問題を解決していく：パイロットプロジェクト（井戸改修）

各ワードで支援したほとんどのパイロットプロジェクトが終了している中、未だに完了していないパイロットプロジェクトもあります。ポートロコ県ワード180の井戸改修もそのひとつです。遅れの原因は主に資材の不適切な利用によります。

このパイロットプロジェクトでは2つの村での井戸改修を行っていましたが、ワード委員会の委員長かつ県議会議員の説明によると、ほとんどの資材を1つ目の村で使ってしまったとのこと。これについては水資源省県事務所の技術者も首を傾げていますが、真実はうやむやにされたままです。

工事の再開と完了のために2度に渡り副大臣を招き県議会・議員に対してテコ入れを行ってもらいましたが、その度に言い分を変える議員の対応により、状況は膠着していました。事実報告の内容を何度も変える議員の態度に呆れ果てた県議会職員は、ついに議員を代表とするプロジェクト運営委員会との契約を破棄し、代わりに井戸のあるコミュニティとの直接の契約を結ぶことを決定しました。

とはいえ、購入した資材は返ってきません。そこで、**県議会が必要額を負担することとなり**、さらに議員には倉庫に保管されているはずの物品の提出を求めました。結局は「倉庫に保管されている」という議員の言い分も事実とは反するようで、代わりに相当する現金を県議会に提出しました。

県議会の尽力により、ようやく残り1つの井戸改修は再開されましたが、コミュニティの議員に対する怒りは収まりようがありません。しかし、政治的な力が働くのか、県議会としてはこれ以上の議員への追及は行わないようです。

行政と地元関係者の尽力により、井戸改修が完了し、清潔な水が再び供給されることを願います。

(久保嶋専門家：コミュニティ開発担当)

2.2 隣村で互いに監視するシステムを構築：パイロットプロジェクト実施時

ポートロコ県のマシメラ・チーフダムのワード199は、小学校改修をパイロット・プロジェクトで実施する事にしました。このセクション地域に小学校1つしかなかったため、地域の人々が切望していたプロジェクトでした。ところが、開始当初は、地域住民の自発的な参加に依存していたため、結果として、資材の運搬等の労務作業を互いに押し付け合い、結局誰も作業をしない等、進捗が芳しくありませんでした。

そこで、ワード委員会とワードの長老等が話し合い、互いに監視し、協力し合うシステムを構築する事にしました。具体的には、この小学校の受益村である5村より、各10名選出してもらい、月曜から金曜



改修が完了した一方の井戸



放棄されたもう一方の井戸

までの5日間、この10名が必ず労務提供する事としました。また、労務者への昼食の提供も重要である事から、各村より50カップずつを2回、合計100カップのコメを提供してもらった事にもしました。労務者と食材が提供されれば、残りのアレンジはワード委員会が責任を持って行えます。

「隣村の人々も提供しているので、自分の村も提供しよう。」「自分の村が担当する日だけ、進捗が悪いと目立ってしまう。」等の理由により、どの村も取り決めに従い、プロジェクトの進捗は回復しました。課題に直面しても、コミュニ



左写真：改修前の小学校。右写真：改修後の小学校後（ワード199）

ニティで話し合い、解決策を講じた良い事例だと思えますので、同じような課題に直面した場合には、他のワードや村でも、是非、本事例を参考にしてもらえると良いと思いました。

（近藤専門家：キャパシティアセスメント/コミュニティ開発担当）

2.3 始めは良かったのですが、臭い所では寝られません：パイロットプロジェクト維持管理時

パイロット・プロジェクトが完成した後は、県議会、チーフダム、ワード、セクション、村、コミュニティ等が一体となり、維持管理をしていく必要があります。

ポートロコ県のブイヤロメンデ・チーフダムのワード177では、市場の整備と共に、トイレ整備も行いました。定期的なトイレの汲み取り等、トイレの維持管理にも費用がかかります。



建設したトイレ(ワード177)

そこで、ワード委員会は、トイレの管理担当者を決め、彼が1回の利用料200レオン（約4円）を利用者より徴収し、1週間に1回10,000レオンをワード委員会へ渡し、残金は彼の収入になるような仕組みを構築しました。

当初、管理担当者は、トイレ横の倉庫で寝泊まりしながら、利用料の徴収をしており、屋根付きの部屋で快適に過ごしながら、収入も得られる状況を喜んでいました。ところが、日が経つにつれ、トイレの臭いがトイレ周辺にも充満するようになり、利用者も減少し始め、そして、とうとう彼自身も、臭いが辛く、トイレ横の倉庫では生活できなくなってしまいました。

今までの収益金があるので、トイレの維持管理費の一部は積み立っているのですが、今のシステムを継続するのは難しそうです。今後の方策について、再度検討する必要があるようです。

（近藤専門家：キャパシティアセスメント/コミュニティ開発担当）

2.4 主席行政官の現場訪問：フィーダー道路工事

フィーダー道路の改修工事は、工期中盤に差し掛かってきました。カンビア県の Lot 3 については、施工監理者からの再三の警告にもかかわらず、工程の遅れや不適切な施工が目立ってきました。

原因は、業者のエンジニアの不在が多く、適切な監督ができていないことです。これについて、まず、県議会と話し、業者には主席行政官とプロジェクトの連名で警告レターを出すことにしました。また、忙しい主席行政官自ら、現場でのミーティングに出席し、指導することになりました。

工事の施工監理は、普段は県議会のエンジニアによって実施されますが、技術者以外の職員の現場訪問も重要です。特に、主席行政官は県議会職員のトップであり、業者への影響はかなり大きいものです。

実は、主席行政官は工事の初めの頃にも自ら現場を訪問し、作業状態の把握に努めていました。このような長の行動は、他の職員や住民にもプロジェクトへの積極的な参加を促す意味でいい影響を与えます。



現場で住民と話すカンビア県の主席行政官（赤いシャツ）。住民の士気も上がる



Lot 3 の不適切な施工。ラテライトの上に不良土を盛っている。すぐに改善の指導を実施する。このような作業は遅れの原因となる。

今回は、実際には主席行政官の予定が合わず、現場指導は実現していませんが、レターや施工監理者の指導の効力で、業者は重機を民間会社から借りる等の方策を取るよう改善の傾向が見られます。今後ともさらなる改善を目指し、県議会からの施工監理を強化します。

(宿谷専門家：調達制度・道路計画担当)

ニュース3：プロジェクトの進捗

2011 年度実施予定の主な事業		
主な活動	予定	進捗状況
県・村落開発ハンドブックの草案	2011 年 5 月までにゼロドラフトハンドブックを作成。 2011 年 6 月からゼロドラフトの改訂作業を行う。	ゼロドラフトの目次案と内容の草案を開始。
モデルワードプロジェクト	カンビア県 4 件、ポートルコ県 2 件 (社会・経済基盤整備) のモデルワードプロジェクト支援を通じ、県・村落開発モデルのうち、特に村落開発モデルの構築を行う。	モデルワード選定のためのワード委員会のキャパシティアセスメントの結果集計中。
パイロットプロジェクト：	フィーダー道路改修計画を支援し、県議会の実施体制と機	課題の抽出とまとめ。次ターム

フィーダー道路・カルバート改修工事	能把握、課題を抽出し来年度開始するモデル事業のモデル案を作成する。 主な工事：フェーズ1第1ターム（2011年5月末まで） カンビア県：フィーダー道路計17Km，カルバート32箇所 ポートロコ県：フィーダー道路12.7Km，カルバート7箇所 主な工事：フェーズ1第2ターム（2012年5月末まで）	の道路計画の準備を進める。 工事進捗：現場での工事実施中。
研修事業	県議会職員、ワード委員会メンバーへの国内研修、第三国研修。パイロットプロジェクトのインパクト調査実施。	計画策定中。

3.1 キャパシティアセスメント

ー県議会職員の能力向上：県議会議員によるワード委員会のキャパシティアセスメントー

本プロジェクトでは、ワード委員会のキャパシティだけでなく、県議会のキャパシティの把握にも努めています。

カンビア県もポートロコ県も協力的な県議会職員が多く、ワード委員会のキャパシティ・アセスメント調査にも、毎回、県議会職員が誰か同行してくれています。本来であれば、モニタリング評価担当官、彼が忙しい場合は、県計画担当官が同行してくれるのが最適なのですが、彼等も日々の業務があり、毎回同行してもらうのは難しい状況です。

また、カンビア県については、モニタリング評価担当官が2010年12月をもって、退職してしまいました。県議会職員は業務量が多いにもかかわらず、人数が非常に限られた状況です。

このような状況ではあるのですが、首席行政官は、各ワードの巡回に、県エンジニア、内部監査官、会計補佐等の同行を指示し、調整してくれています。あまりにも人材が足りない場合は、県議会インターンをしている若者等の同行で対応しようとしているのですが、彼等はまだ業務に慣れておらず、モニタリングの実施、そしてその結果の県議会での共有は出来ていない状況です。

ワード委員会のキャパシティ・アセスメント調査に関してだけでも、人材の調整、各人材の能力向上等、県議会が多数の課題に直面している事が分かりました。課題は、多数ありますが、本プロジェクトを通じて、徐々に課題解決の糸口が見つけられればと思っています。

2011年4月現在、全国的に各県議会は、1) 情報教育コミュニケーション担当官、2) 社会保障・ジェンダー・子供担当官、3) 経済担当官、4) 評価鑑定官を公募中です。中央での調整がまだ確定しておらず、彼等が確実に派遣される保証はまだありませんが、優秀な人材が補給されれば、県議会職員間の業務の調整もでき、また、各人が担う業務量も多少は軽減されそうです。

(近藤専門家：キャパシティアセスメント/コミュニティ開発担当)

3.2 パイロットプロジェクト：各ワードのコミュニティ開発プロジェクト —引渡し式—

3月の終わりまでに無事、ほぼすべてのパイロットプロジェクトが完了しています。完了したプロジェクトの引渡し式では、県議会からの代表が施設の維持管理の重要性について強調します。

パイロットプロジェクトの対象となった施設は、もしも、適切に維持管理が行われていれば、改修する必要すらなかったはずで、コミュニティの人々にとっては、これまで公共施設というものは、どこかの誰かが無料で与えてくれるものでした。そして、ひとたび壊れてしまえば、そのまま放置されてきました。自分の所有物ではないので、誰も修理しようという気にはならないのです。このような状況で、コミュニティの人々に自分たちの物だという意識を持ってもらい、自分たちでお金を払い改修していくという維持管理体制を構築していくことは並大抵のことではありません。



完維持管理の重要性を熟弁する県議会職員

中には事前にコミュニティで話し合った維持管理の方法や規則を、引き渡し式で発表する議員もいます。使用料をいくらと既に決めており、それをコミュニティの人々と再確認する議員もいます。口で言うのは簡単ですが、果たして実行できるのかどうか。改修工事のためにコミュニティが一つにまとまり、困難な工事を完了させることができたのだから、維持管理もできないことはないだろうと思います。すべては議員たちのリーダーシップとコミュニティの維持管理して行こうという意思にかかっています。改修工事そのものは完了しましたが、維持管理へのコミュニティの終わりなき努力は始まったばかりなのです。

(久保嶋専門家：コミュニティ開発担当)

3.3 パイロットプロジェクト：フィーダー道路・カルバート改修工事

—重機との戦いと次に向けての道路計画—

道路網の整備が遅れているシエラレオネでは、特に農村地域内を結ぶフィーダー道路の改修は重要で住民の要望も高いものです。

そのフィーダー道路改修工事ですが、4つのサイトで施工業者によって改修中で、5月末までの工期の半ばに差し掛かりました。作業は、草刈り、側溝の掘削等の人力作業から、道路本体の重機の作業に入ってきました。



業者に指導するカンビア県エンジニア（左端）。当初より、だいぶ板についてきました。

重機を所有していない業者は、道路局から借り受けますが、ここで小さな問題が起きました。道路局に問い合わせたところ、運搬トラックの故障に加え、適切な運行計画が提出されないため、疑心暗鬼に陥っているとのことでした。例えば、1週間必要な作業なのに、3日間のリース契約しかしていない場合、延長することになります。道路局としては、要請を下に予定を組んでいるため、勝手に延長されても困るし、リース料の支払いが心配になります。そこは、県議会職員とともに、業者に適切な重機計画の指導をしました。このような作業を通じ、施工監理における技術移転を図りつつ、終盤に向けて県議会主体の工事が円満に終わるように進めていきます。

また、この期間で次の乾季での道路改修における道路計画を立て始めました。今までは、各セクターや県議会が独自に道路改修をしており、道路網の整備ではなく、虫食い状態でした。そこには、道路局と県議会の連携が無かったこともあります。



ポートルコ県の現場。かなり道が良くなってきました。このまま重機が壊れなければ、出来上りは期待できます。

今回は、ポートルコ県の道路局のエンジニアの協力が得られ、プロジェクトチームの仲介の下、次のステップで改修道路を選定する道筋としました。①両者共同で改修リストを作成する、②リストから、県議会と道路局により裨益度から優先順位をつける、③優先順位をもとに、プロジェクト毎に改修道路を選定する。出来る限り政治的な判断を省き、住民等への裨益度の高いプロジェクトを実施することが狙いです。

現在、改修リストの作成中です。両県議会とも主席（副主席）行政官が主体で作業しており、県議会職員いわく、「本来はこのようなステップは重要だ」とのことでした。最終的には議会での承認が必要で、まだ困難はあるでしょう。ただ、道路局との協調も含め、改良への第一歩を踏み出した両県議会の試みは、プロジェクトを通じてサポートしていきます。

（宿谷専門家：調達制度・道路計画担当）

3.4 研修計画 ー財務・経済開発省と共催でコンピューター研修を実施ー

4月6日・7日の2日間にわたり、財務・経済開発省（MOFED）派遣の鈴木専門家とカンビア県議会事務所（CDCDプロジェクト）とのコラボレーションによるExcel研修が実施されました。研修は二部構成になっており、初日午前中はGISの概要説明とその応用方法、初日午後～2日目はExcel基礎操作研修でした。



GIS概要説明に真剣に聞き入る受講者

この研修の企画当初はMOFEDによる単独開催でしたが、本プロジェクトが活動を行うカンビア県での開催ということで、地方分権化を意識し、カンビア県議会が研修開催の協力機関となりました。今回のカンビア県議会の主な協力内容は、会場の手配・準備、参加者募集・名簿作成、軽食準備等の業務でした。研修の実施における準備作業を自らが行うことで、県議会事務所としてはイベントの段取りを学ぶ機会となりました。

初日午前中の講師はMOFEDのAlpha氏。基本となる白地図の上に、河川の情報や診療所の情報を自由自在に追加削除ができるGISに、参加者は皆興味津々。無駄話をする事も無く、皆真剣に話に聞き入っていました。

午後からは鈴木専門家のExcel講座。GISに落とし込んだ様々な情報を分析するために、最終的にはExcelやSPSSを使って簡単な統計作業が出来るようになるのがこのExcel講座の究極目標になります。し

かしながら、参加者のパソコン経験に大きな差があるため、今回は Excel シートの基本的な使い方を中心とし、SUM 関数の利用とデータの並べ替え、グラフの作成までの講義となりました。

全くパソコンを使ったことのない人から業務で多少 Excel を使ったことがある人まで、参加者のレベルは実に様々。しかし全参加者に共通することは、「Excel の関数を使ったことがない」ということでした。参加者のレベルに大きな差があったため、全員に同一のレベルの理解を求めるのは難しいのですが、多少なりとも Excel の経験があった参加者は、SUM 関数で自動的に合計を計算し、その合計値をもとに簡単にデータを並べ替える方法を習得し、目からうろこが落ち、Excel の技術習得の面白さに目覚めていました。



パソコン操作に苦戦する受講者

次回は6月上旬を目処に、ポートルコ県にて同様の研修を開催予定です。尚、次回研修では、今回の受講者で Excel の面白さに目覚めた方に研修サポーターとして参加してもらい、参加者ではなく、講師として逆の立場で参加をしてもらう予定です。

次回研修開催時は、今回の研修参加者の成長振りに着目し、研修の様子をご報告いたします。

(吉野専門家：業務調整/研修計画担当)

3.5 Steering committee会議開催 ーモデルワード選定の基準を確認ー

4月15日にポートルコ県で、本プロジェクトの関係者が集まり、パイロットプロジェクトで支援した32のワードから12のモデルワードを選定する基準について協議し、参加者の中で合意が得られました。

モデルワード選定基準の説明は、カンビア県の主席行政官が行いました。彼の発表と質問に応じる姿勢と一つ一つの言葉から、プロジェクトに関わる主体性が伝わってきました。これも、専門家がプロジェクト開始当初から助言していたことが、「するめイカ」のようにかめばかむほど味が出て、彼の中に浸透していった成果です。



会議でモデルワードの選定基準について説明をするカンビア県主席行政官

また、この日は久保嶋専門家の現地業務最終日となりました。久保嶋専門家が活動報告を行い、これまでの成果、課題と提言をまとめてカウンターパートに伝えました。活動報告後、特に県議会に対して示した業務改善のための提言については、県議会職員からも謝辞が述べられました。

本プロジェクトでは、これまでに各専門家がまとめた提言の内容を、これから作成する県・村落開発ハンドブックに盛り込み、県議会とワード委員会に役立つ実務書として活用してもらえるように支援していきます。

(平林リーダー)

シエラレオネには 20 近い言語があるとされています。首都フリータウンを含め全国的に使用されているのが「クリオ語」で、北部では主に「テムネ語」が使用されています。カンビア県議会の委員会や会議や打合せ等も、テムネ語で行われる事が頻繁にあり、カンビア県議会職員も、私達に積極的にテムネ語を教えてくれていました。したがって、当初、県議会職員のほとんどは、テムネの人だと思っていましたが、実は多様である事が最近分かってきました。副首席行政官は「スス」、調達官は「フラ」、会計担当官は「リンバ」、そしてエンジニアの解するのは「クリオ語」のみでした。また、フランス語国のギニアとも国境を接しているためか、フランス語由来の言葉も会話の中に混ざっています。日本人が聞くと、ちょっと不思議なシエラレオネの言葉をいくつかご紹介します。

①ボクトクはボクトツではなく非朴訥

シエラの人々の会話を聞いていると、「彼／彼女は、ボクトクだ。」という発言が出てきます。この発音だけを聞いていると、ボクトツに近く、寡黙で無口な感じの日本語の“朴訥”を想像してしまいそうですが、実は真逆の意味です。ボクトクは、Beaucoup Talk から来ていて、フランス語で“たくさん”という意味の Beaucoup と英語の“話す”の Talk の混合語で“たくさんしゃべる人”という意味です。



ボクトクなワード委員会長を囲んでのドライブフロア
ー引渡式

②タックスは税金ではありません

カウンターパートやスタッフと話をしていると、「私はたくさんタックスがある。」という発言が飛び出てきます。タックス=Tax=税金をたくさん払っているという事かと思ったら、大間違いです。タックスではなく、タスクの意味で、「私はたくさんやるべき課題がある。」という意味でした。シエラレオネでは、“sk”がほぼ全て“ks”に入れ替わります。“課題”の“task”は“taks”に、“質問する”“ask”は“aks”に、“机”の“desk”は“deks”になります。英語に似たクリオ語だけでなく、英語自身を話している時も、この入れ替えが生じるので、慣れないと彼等の話を正確に把握するのが難しくなってしまいます。



男の鶏でも女の牛でもありませんがカンビア県の道路にいた亀(アクシェセ)

③オトコとオンナ

テムネ語には、「ン」のような撥音や「ッ」のような促音もあり、日本語と似ている所も多数あります。したがって、日本語の語呂を考えながら、テムネ語を覚えると、記憶に残り易いです。ちなみに、「オトコ」を跳ねさせて「オンットッコ」と言うと「鶏」という意味になります。そして、「オンナ」を伸ばしながら「オンナナ」と言うと「牛」という意味になります。「鶏」は「男」で、「牛」が「女」って、面白いですね。

コラム2：シエラのチカラ -カンビア県観光案内：川にもビーチ!?- by 宿谷専門家

とある土曜日の午後。カンビア県の工事現場 Lot 2 から帰ろうとした時、業者のエンジニアが突然言い出しました。「この先にビーチがあるんだけど、行ってみないか」。

といってもここは内陸、「そんなものはあるの?」、と思いましたが、15分だということで訪れてみました。

けもの道のような道路を抜けると、目の前に広がったのは、まさしくビーチ！乾季で水位が下がり、川の砂浜が現れたのでした。もともとは、コンクリートに混ぜるための砂を採取している場所のようです。でも、目の前の対岸が無ければ、それはまさしく海と変わりません。

そしてそこには、乾季の間、周遊しながら漁をする漁師一家もいました。捕れる魚はもちろん川魚ですが、小さめの牡蠣もあり、パームオイルで良く揚げ



捕れた魚を持って、ハイポーズ。持っている魚はナマズのような魚です。

たものを一つ味見してみました。それは、芳醇で濃厚な味わい、、、とはいかず、せんべいのようなでした。エンジニア達は早速、とれた魚を交渉して買っていました。値切れたかどうかは知りません。



目の前に広がる誰もいない砂浜。日光浴と森林浴が楽しめます。



川でとれた牡蠣。見た目は、シエラのビーチで食べたものと変わりません。

エンジニア達皆、普段は工事のことばかりで頭がいっぱいですが、午後のほっとした一時を過ごすことができました。

(次号へ続く)

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年10月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、吉野業務調整/研修計画専門家、宿谷調達制度/道路計画専門家、久保嶋コミュニティ開発専門家、近藤キャパシティアセスメント専門家、反町キャパシティアセスメント専門家（2010年4月実績）